

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第34号
2019(令和元)年10月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

他品種の栽培について — 「各地綿種を交換するの必要」 —

綿の収穫はピークを過ぎました。畑ではまだ和綿も洋綿も花が咲き、綿も吹いていますが、花は確実に小さくなり、綿の吹く量は目に見えて減りました。和綿の収穫最盛期は9月8日の白露以降、9月末日までの約3週間。洋綿は10月に入ってから次々とはじけ、ピークは10月24日霜降頃までという感じです。

今年の綿花は、豊作です。9月の降雨量が少なかったことが理由の一つであることは間違いありません。加えて、とくに和綿の茶綿が豊作で、これは品種によるところが大きいのかも知れません。同じ和綿でも、白綿と茶綿で収量に大きな差が出ました。綿を栽培して11年目になりますが、これほどよく実をつける綿木は初めてのようになります。

この茶綿の種は、2018年に東京都内にある学校の先生から分けていただきました。その先生は、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」から種を分けて頂いたようで、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトでは、在来種である備中茶綿の栽培に取り組まれているとのことでした。したがって本年、木綿庵で栽培した和綿の茶綿も備中茶綿ということになります。昨年は試験的に16株を植え、今年はその株から収穫した種を用いて78株を栽培しました。昨年の収穫量は、16株で実綿560gでした。今年は78株ですでに実綿10kgを超えています。

木綿庵では、2008年に綿の栽培に取り組みはじめて以来、同一品種の自家栽培にこだわってきました。しかし、今回の経験から他品種の栽培や品種改良に取り組んでみるのも一案かもしれないと考えるようになりました。綿花の収穫には、気候風土や栽培方法が大きく影響することはよく知られているところです。他品種や新品種であっても、木綿庵の畑で栽培するかぎり、大和の地、天理ならではの品種に育っていくに違いありません。一概に純化することだけが良いとも限らないということについては、以下のような記述もあります。「綿は数年同一の種を用ふる時は兎角変種し易く、しかも劣退に傾くこと甚だしきを以て、各地綿種を交換するの必要行われ来れり。」(農業経営研究会『日本棉作要説』大正8年発行237頁)

ちなみに、大正2年発行の農商務省農務局『綿花ニ関スル調査』においては、綿花の評価は品種別ではなく産地別に記されています。※引用は、財団法人東亜経済調査局編『本邦に於ける棉花の需給』(昭和7年)。

「一、摂津川辺郡、武庫郡、豊島郡、島下郡、西成郡等より産するものを坂上綿と云ひ、繊維比較的細長にして柔く弾力に富みて光沢あり、内国品中第一等の声価を博せり。繰綿として各地に輸送せられ、各種綿織物の材料に供せられたり。」

「二、山城国綴喜郡等の各村より産出する綿を国名を冒して山城綿と云ひ、品質優良にして、坂上に垂ぐ声価を有せり。」

「三、河内国若江郡、渋川郡、讃良郡、丹北郡、高安郡、大県郡、河内郡等より産出せしものを河内綿と云ひ…」

「四、大和国より産出するものを大和綿と云ひ、繊維中等にして柔かなれども光沢少々悪しく色亦赤味を帯び、河内綿より声価少々劣れり。大部分は綿布の原料に供し、約三割は繰綿として各地に輸出せり。」(12~13頁)



6号畑の備中茶綿(和綿の茶綿)

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和元年9月24日~10月23日)

大阪府1、奈良県1、愛媛県、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和元年9月24日~10月23日)

メールを含む各種相談件数6、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数5件15名



《綿の栽培記録 2019》 — 平成31年(令和元年)度版 その9 —

10月下旬になり、綿花の収穫もピークを過ぎました。綿摘みがかもとも忙しかったのは、9月の中下旬です。とくに和綿は毎日毎日、摘んでも摘んでも次々とはじけてくる…、という感じです。

ところで、今年初めて栽培に取り組んだ緑綿については、ほとんど収穫できていません。綿木は大きく立派に生長したのですが、アブランドのようなコットンボールにはならず、平たく垂れ下がり、繊維の先端がすぐに色褪せ、期待したような緑色の綿花にはなりません。この緑綿は遠方の知人から分けてもらった種を、今年初めて播いたものです。これが本来の姿なのかもしれませんし、水気を多く含んだ土質が影響しているのかもしれません。初めて扱う品種を栽培する上では、事前にもっと情報を収集するなり、最初は試験的な栽培にとどめるなど、工夫が必要かもしれません。



1号畑全景(和、洋の白)



綿摘みの様子



綿摘みの要領



5号畑(和、洋の白)



6号畑(和、洋の茶)



7号畑(洋の緑)

【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成29年, 2017産。丹羽正行氏による打ち綿)
9月24日～10月23日 (作業実日数21日) 糸の総量52.0g (13.9匁) 総時間188分 (3時間8分)
※1分間≒0.277g 1時間≒16.6g (4.4匁)

【研修等の記録】

- 令和元年09月29日「相楽木綿伝承館：機織り教室-専科」(京都府相楽郡精華町)受講。経糸の準備。
- 令和元年10月01日 内閣府「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」近畿ブロック研修会参加 (県民交流プラザ和歌山ビッグ愛：和歌山市手平)
- 令和元年10月06日「相楽木綿伝承館：機織り教室-専科」(京都府相楽郡精華町)受講。整経。
- 令和元年10月13日「大東市立歴史民俗資料館」(大阪府大東市野崎)見学。河内木綿栽培奮闘記展開催。
(下段の写真は、大東市立歴史民俗資料館。左：糸車、中：下機、右：栽培中の綿木。河内木綿、白。)

